

# 1/27

# セミナー スケジュール



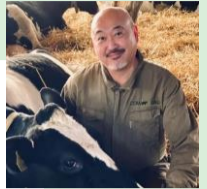
農業就職・転職LIVE

10:30~10:55

## 農業の中の酪農とは？ ～その魅力と未来へのカタチ～

酪農の魅力とやりたい人が酪農に携わる様々な選択肢についてお話しします。

株式会社COWROAD 代表取締役  
渡邊良雄



農業高校卒業と同時に酪農家の2代目として継承。24頭の乳牛と30haの牧草地から始まり、現在1,000頭の乳牛と400haの農地を管理しています。

2010年に株式会社COWROADとして法人化し『地域のためになる牧場』を理念に掲げ、地域から耕作放棄地を出さないために農地を引き受けること、法人経営の酪農として地域に根ざし継続し続ける事で地域人口や社会インフラの維持へ繋げること、安心安全な食糧生産を担う大きな責任があることを日々考えながら北海道道東地域の大自然の中で企業活動を行っています。日々の牧場の様子をSNS(XやInstagram)で発信しています。

11:30~11:55

## 農業体験・移住体験の積極的活用について

「百聞は一見にしかず」全国各地で農業体験・移住体験ができるしくみを解説。

株式会社ノースエイム  
代表取締役 宮村昌吾



地域の農業振興に貢献するため、2014年に株式会社ノースエイムを設立。社名の通り、北海道・東北地方を中心に活動を始め、現在では、全国の地方自治体と協力して、地域計画の話し合いや集落営農組織の法人化支援など様々な農業振興事業を進めている。

また、収穫期などの人手不足を解消するため、「旅ワーク」という求人サイトを運営し、若者と農業生産者をマッチングし効率的な人材確保を実現している。担い手確保に留まらず、農業人材の技術向上と賃金上昇にも積極的に取り組んでおり、今年の秋には農業向け人事評価制度構築運用アプリ「人事の一步」をリリース予定。

12:30~12:55

## 求められる農業人材 ～花き生産法人の実例から～

農業法人に求められる人材とは？あまり知られていない花き生産業の基本知識から、業務内容の実例を紹介し、求められる人材像を解説。

有限会社エフ・エフ・ヒライデ 代表取締役  
平出賢司



2000年4月千葉大学大学院自然科学研究科卒業。卒業と同時に家業のユリ切り花の生産業に従事し生産管理を担当。バックオフィス業務にも取り組み、生産履歴のデータベース化、球根輸入業務、Web販売の運用等にも取り組む。同時に環境負荷低減に早くから取り組み、農業の80%減等を実現。近年では事例の少ない花きのスマート農業実証事業にも取り組む。2015年同社代表に就任。2019年に栃木県農業士を拝命、後進の育成にも努める。2020年栃木県農業大賞、日本農業賞個別経営の部優秀賞受賞。

13:30~13:55

## 日本の農業の未来と可能性

輸出を前提に強固なバリューチェーンを構築することで生まれる日本の農業の可能性と、そこで働くことの面白みについてお話しします。

株式会社日本農業 代表取締役CEO  
内藤祥平



横浜で育ち、慶應義塾大学法学部在学中に鹿児島とブラジルで農業法人の修行を経験。さらに、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校農学部にて1年間の留学を経て、外資系経営コンサルティング会社のマッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。2016年10月に退社するまで、日本支社の農業セクターのメンバーとして活動し、2016年11月に株式会社日本農業を設立してCEOに就任。

14:30~14:55

## 新規就農の前に知っておきたい 大淘汰時代の日本の農業

現在の農業は正に大淘汰時代。誰にでもできる仕事ではなくなった農業の現状を学びます。

株式会社久松農園 代表取締役  
久松達央



慶應義塾大学経済学部卒業後、帝人㈱を経て、1998年に農業に転身。年間100種類以上の野菜を自社で有機栽培し、個人消費者や飲食店に直接販売するD2C型農業を実践。生産・販売プロセスの合理化と独自のブランディングで、経営資源に恵まれなくとも、補助金や大組織に頼らずに少数精鋭のチームが自分の足で立つ「小さくて強い農業」を標榜する。他農場の経営サポートや自治体と連携した人材育成も行っている。著書に『キレイゴトめきの農業論』(新潮新書)、『小さくて強い農業をつくる』(晶文社)、『農家はもっと減っていい～農業の「常識」はウソだらけ』(光文社新書)。

15:30~15:55

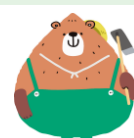
## これからの日本の農業 ～人と人の繋がりで継続する農業～

農業の魅力や将来性、課題を就農25年のベテラン農家が紹介します。

飯野農園  
飯野芳彦



東京農業大学短期学部卒業後20歳で就農し25年目。2017年度、全国農協青年組織協議会会長、2018年度～19年度、全国農協青年組織協議会参与。都市近郊型産地として露地野菜を中心に栽培。労働力は従業員1名、パート9名。ストレスを緩和する生産管理を行い美味しい野菜の生産と地域の気候・土壌の特性を活かした生産に取り組む。地域地場産業として地域の雇用を生み出し笑顔で働ける環境を作り出す努力を惜しみません。笑顔で生産する野菜を笑顔で食べていただけることをモットーに日々生産に取り組んでいます。



新・農業人フェア